

## 東日本大震災 応援給水第一班支援内容

平成 23 年 3 月 11 日(金)

午後 2 時 46 分 東北地方太平洋沖地震発生

地震発生直後から支援の準備を進めつつ、被災地の情報収集を行っていましたが、震災直後は現地の被害状況がまったくつかめない状態でした。

- ・連絡が集中することによる通信網の不通
  - ・地震と津波による被害があまりにも甚大なため、被災した自治体も何がどうなっているのかわからない
- このような中、津波がおさまった午後7時頃から、ようやく被災地の状況がわかりはじめました。しかし、それは、あまりにも大きな被害でした。

深夜まで情報収集を行い、被災地への支援体制を確保しました。また、高速道路の状況等を確認し、どのようなルートで関東、東北方面へ向かうかも検討しました。

一方で、「日本水道協会」という全国の市町村水道等で組織する協会が、全国の会員に向けて、支援に向かえる職員数や給水タンク車の台数を確認していました。

平成 23 年 3 月 12 日(土)

午前 9 時

堺市上下水道局危機管理対策本部会議を開催し、被災地へ支援に向かうことを決定しました。

応援給水第一班として、

- ・職員 6 名
- ・4t給水タンク車 1 台
- ・2t給水タンク車 1 台
- ・4t貨物車 1 台

を被災地へ向けて出発させることとし、支援物資として、応急給水袋 5,000 枚、災害用備蓄水 2,400 本、および臨時給水用の連結給水栓を 4t貨物車に搭載しました。

午前 11 時

日本水道協会から、関西の各自治体の支援先が決まり次第、随時連絡するので、準備の整った自治体は、とにかく関東方面へ出発してほしいとの連絡がありました。

午後 2 時

その後、支援物資の搭載や、警察署での緊急車両手続き等の準備が整った時点と同時に日本水道協会から連絡があり、堺市の支援先は茨城県河内町と決定し、約 600 km先の被災地まで応援給水第一班が走り始めました。



加圧式 4t 給水タンク車



河内町へ向かう応援給水部隊

平成 23 年 3 月 13 日(日)

午前 2 時 茨城県河内町到着

午前 2 時 30 分 到着後、明日のスケジュールと応援内容の説明を受け業務終了

午前 6 時 30 分 給水業務開始

【堺市の活動状況】

災害用備蓄水 2,400 本を町民の皆さまへ配布

4t車給水 5 回、2t車給水 6 回

給水合計 11 回、32t

給水場所・・河内町役場、つつみ会館(公民館)、中央公民館、農業トレーニングセンター

午後 7 時 30 分 業務終了



河内町は人口約 11,000 人の小さな町で、町内へ水道水を送る配水池は一つしかありません。河内町に津波被害はありませんでしたが、地震による配水池の損壊により、町内全域が断水しました。

写真は河内町の配水池で、配水池周囲の地盤が約 1.5m 沈んでいます。



3月13日(日)朝の河内町役場前には、被災された方々が一時間待ちの列を作り、給水タンク車を待っておられました。

写真中央の棒状のものが応急給水用の連結給水栓で、通常給水タンク車からは 4 か所しか給水できませんが、連結給水栓をつなぐことで 8 か所の蛇口が追加され、合計 12 か所からの給水が可能となり、長蛇の列が解消されました。



写真中央の方が持っている取手のある四角いビニール袋は、堺市上下水道局の 10ℓの水が入る応急給水袋で、ペットボトル等の小さい容器しか持っておられない方々に、たいへん重宝されました。ただし、数に限りがあるため、必ず翌日も持って来ていただくように声をかけて配布しました。

平成 23 年 3 月 14 日(月)

午前 6 時 30 分 業務開始

【堺市の活動状況】

4t車給水 6 回、2t車給水 4 回

給水合計 10 回、32t

給水場所・・・河内町役場、つつみ会館(公民館)、中央公民館、農業トレーニングセンター

特別養護老人施設「あじさい苑」「千の風」

午後 7 時 30 分 業務終了



3 月 14 日(月)の河内町役場前では、隣県の福島第一原発 3 号機の爆発が報道されたことにより、全員にマスクが配布されました。

実際、この時点においては、建屋の水素爆発による放射能漏れの影響は少なかったようですが、被災地では情報が少ないため、町民の方も支援部隊もたいへん不安な時間を過ごしました。

平成 23 年 3 月 15 日(火)

午前 6 時 30 分 業務開始

【堺市の活動状況】

4t車給水 6 回、2t車給水 1 回

給水合計 7 回、26t

給水場所・・・河内町役場、つつみ会館(公民館)、特別養護老人施設「あじさい苑」

午後 7 時 00 分 業務終了



河内町災害対策本部会議が毎日開催され、応急給水の状況や、復旧の状況について情報交換を行いました。

左奥壁側が河内町の野高町長、手前の列左から稲敷広域消防組合、自衛隊、堺市、大津市、川崎市で、奥の列は河内町の管理職の方々です。

平成 23 年 3 月 16 日(水)

午前 6 時 30 分 業務開始

【堺市の活動状況】

4t車給水 4 回、2t車給水 1 回

給水合計 5 回、18t

給水場所・・河内町役場、つつみ会館(公民館)、金江津小学校

午後 7 時 00 分 業務終了



写真は河内町立金江津小学校、写真奥にある貯水槽に給水を行っているところです。給水タンク車には、加圧ポンプがついているため、給水タンク内の水を受水槽に送ったり、配水池にある水を吸いだしたりできます。

堺市の給水タンク車は、老人ホームや小学校等の貯水槽に何度も給水活動を行いました。

平成 23 年 3 月 17 日(木)

午前 6 時 30 分 業務開始

河内町の水道の復旧見込みが立ったので応急給水活動の規模の縮小に伴い、河内町の応急給水は引き続き川崎市が受け持つこととし、堺市は支援を求められている岩手県へ向かうこととなりました。岩手県での応援給水は雪道が多いため、河内町周辺で雪道に強いスタッドレスタイヤに交換しました。

また、岩手県への支援物資を補充するため、応急給水袋 3,000 枚や災害用備蓄水 1,200 本を積載した 2t 貨物トラックが、前日に堺市上下水道局から到着していました。この補給部隊は第一班の 4tトラックに乗り替え、17 日に堺への帰路につきました。

午後 1 時

成田空港から到着した応援給水第二班の 6 名と合流し、引き継ぎを行った後、応援給水第一班は帰阪し、応援給水第二班は河内町で一泊した後に、4t給水タンク車、2t給水タンク車、2t貨物トラックの 3 台編成で日本水道協会が拠点とする岩手県盛岡市上下水道局へ向けて出発しました。



茨城県河内町で、給水タンク車のタイヤを雪道用のスタッドレスタイヤに交換しているところ。